

令和3年度学校自己評価システムシート（県立川島ひばりが丘特別支援学校）

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校。 ・保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す授業づくり 2 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための取組の推進 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底及び教育活動の両立を図った学校運営が必要である。 ・肢体不自由教育に初めて携わる教員を多く迎える現状を踏まえ、教育観、児童生徒に対する観察眼、目標設定、計画立案及び指導方法について、これまで培った教育実践を継承し、発展させる。 ・前年度から検討を加えてきた新学習指導要領への対応や「流れ図」の活用により、根拠を明確にしなが、各教科・領域等の指導の充実を組織的に図る。 ・タブレットやデジタル教材、視線入力装置等ICT機器を含めた教材教具を教育活動全般において積極的に活用する必要がある。 ・学校行事等の意義を踏まえたうえで、精選、見直しを図る必要がある。 	○組織的に教育力を向上させる	<ol style="list-style-type: none"> ①【新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底及び教育活動の両立】感染拡大防止に向けた「新しい学習環境づくり」に基づいた児童生徒、保護者、施設、教職員への正確かつ適切な情報提供を行うと共に、感染不安など心的ケアに配慮した校外行事等を安全に実施する。 ②【教員の資質向上】教員は研究修養とOJTに励み、児童生徒の見方や教育観、指導の技能技術、児童生徒の健康と安全の保持向上、保護者、施設との連携体制の維持向上に努める。また、社会的な常識・規範とコミュニケーション等、若手教員に適時適切に指導し後進の育成を果たす。 ③【教育活動の充実】研究部、総合支援部と連携して個別の指導計画立案に際して「流れ図」の活用を定着させることにより、担任間の共通理解に基づいた各教科・領域等の指導の妥当性を高める。 ④【ICT活用を含めた教材教具】情報教育部、各学部と連携して、ICT機器等を含めた教材教具の効果的な活用を検討・実施する。また、状況に応じてオンライン授業及びオンライン授業参観等を検討・実施する。 ⑤各学部において行事の内容等について検討する。 	<p>学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定的な回答が増えたか。また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保護者、施設、地域と連携して新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら学校行事を安全に実施することができたか。 ②教育目標等に基づいた教育活動を実践されているか。学習指導は創意工夫されているか。 ③各教科・領域等の指導において児童生徒の実態に合った計画・指導・評価が行われたか。また、児童生徒の変容が見られたか。 ④ICT機器等を含めた教材教具等の効果的な活用について検討・実施することができたか。また、オンライン授業やオンライン授業参観等を検討・実施できたか。 ⑤各学部において行事の内容等について検討することができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①更新した「新しい学習環境づくり」に基づき、感染症対策の徹底に努めた。感染状況を踏まえ、学校行事を適切に判断及び実施することができた。アンケートからは95.4%の肯定的な回答を得た。②児童生徒に対する学習指導、実態に応じた創意工夫が見られた。学習発表週間等で児童生徒の活躍の場を確保することができ、97.7%の肯定的回答を得た。③自立活動専任と共に流れ図の活用を積極的に進め、指導に生かすことができた。④ICT機器の活用が進み、Zoomを使ったオンライン授業参観や校内での会議での活用がされた。アンケートでは76.8%の肯定的な回答を得て昨年度より6.8%向上した。⑤行事の精選を検討し、各学部等で見直しを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底と教育活動の両立を図った学校運営を行っていく。 ・「新しい学習環境づくり」を随時更新しながら、適切に教育活動を進めていく。 ・報告・連絡・相談を常に行い、保護者や施設との連携を図りながら日々の授業の充実を目指す。 ・自立活動専任と担任間の連携を図り、流れ図を活用し、根拠を明確にした自立活動の指導の充実を進める。 ・Zoomなどのオンラインの取組を進め、通常取組と合わせて教育活動の充実を目指す。 ・会議内容を精選し、整理し業務の効率化を図る。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内小中学校等の求めに応じた支援、就学相談等については、引き続き継続発展する必要がある。 ・学校関係者による進路先福祉施設の理解促進と連携強化の指摘を踏まえ、進路開拓を進める必要がある。 ・学校間交流等や支援籍学習の推進をはじめ、共生社会の形成に向けて情報発信や交流体験等を拡充する。引き続き本校及び児童生徒に対する理解促進のため、地域に根差した特別支援学校として情報発信を続ける必要がある。 	○共生社会の形成に向けた取組を進める	<ol style="list-style-type: none"> ①【センター的機能の発揮】・地域からの求めに応じた支援の充実、早期の就学相談の実施、行政機関とのネットワーク会議の年2回開催、支援ボランティアの養成講座の実施等、本校のセンター的機能の発揮及び充実を図る。・市町の協力やハローワーク、医療的ケア、重度・重複障害の児童生徒に対応できる生活介護施設との連携を深め、生徒の進路実現に向けた取組を進める。 ②【本校及び本校児童生徒に対する理解促進のための取組】・状況に応じ、介護等体験等の積極的な受け入れを行う。・HPや広報誌による発信等を充実させ、保護者や地域の方々に対し本校児童生徒及び本校の教育活動に関する理解を促進する。 	<p>学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定的な回答が増えたか。また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域からの要請に、適切に対応できたか。また、生徒は希望の進路実現ができたか。 ②オンラインを含めて学校間交流等や支援籍学習は適切に実施されたか。また、配付物や配信等により学校の様子がよく伝わったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①センター的機能として251件支援を行った。公開講座を開き、59名の参加があった。地域の特別支援教育への理解啓発を行った。進路については高三全員進路先を決定することができた。②オンライン等の取組を通して学校間交流や支援籍学習を実施することができた。また紙面で実際の取組を伝えることができた。高等部では産業教育フェアにWeb参加し、作業学習の取組を発表した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター、自立活動専任を中心に校内及び地域の特別支援教育の充実を図る。 ・交流学习、支援籍学習では、オンライン交流、動画交流、作品交流、紙面交流など内容の充実した交流を継続する。 ・進路の取組を全校の保護者対象に進め、生活介護施設、現場実習先との連携を強化する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアは、保護者、施設の理解と協力を得ながら円滑に運営してきたが、さらに維持向上させる必要がある。 ・児童生徒個々の状況に応じた緊急対応マニュアル作成、対応訓練等を重ねているが、発生時に確実に再現し、被害を最小限にとどめる工夫努力をさらに進める必要がある。 ・本校は洪水時に5mを超える浸水想定区域であることから、防災マニュアルに基づき、地震、火災、水害等への危機管理意識を高めていく必要がある。 	○児童生徒が健康で安全に学習できる学習環境を整える	<ol style="list-style-type: none"> ①【安心安全の維持向上】・ヒヤリハット報告等事故防止のこれまでのノウハウを踏まえ、正常性バイアスを撤廃した安心安全の維持向上を遂げる。・医療的ケアに関しては、担当教員の育成を図る。 ②【早期発見・早期対応の徹底】危機管理意識の共有により課題を早期に発見し、発生時には事実の正確な把握、改善までの丁寧な対応を組織的に迅速かつ確実に実施する。 ③【災害対策】川島町や本校防災安全部、スクールバス部等と連携して地震、火事、水害等の災害を想定し、あらゆる有事に迅速かつ的確に対応できるよう、防災マニュアルに基づき、教職員及び児童生徒等への適切な対応を周知する。 	<p>学校評価アンケートでの次の質問項目に肯定的な回答が増えたか。また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①施設設備は安全であったか。また、医療的ケアは適切に実施されたか。 ②健康管理について、学校は保護者、医療機関、施設と連携して対応できたか。 ③HP、メール配信による情報は適切であったか。また、災害に対する危機管理意識を高めることができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①医療的ケアは適切に実施され、85.6%の肯定的な回答を得た。養護教諭、看護教員、看護師と連携し、ヒヤリハットの事例を踏まえ、安全に実施することができた。また施設等との連携も図れた。②緊急対応マニュアルの更新に基づき実態に応じた緊急対応訓練を実施できた。③メール配信による情報を迅速かつ適切に行うことができた、97.6%の肯定的な回答を得た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告を共有し、医療的ケアの安全実施を継続していく。また、新たな担当教員の育成を図る。 ・避難訓練、引き渡し訓練等を行い、災害時を想定しながら危機管理意識を高める。また、不審者対応訓練での反省を踏まえて、門扉の10時以降閉鎖、保護者パスの利用を徹底する。 ・引き続き、メール配信による情報提供を迅速かつ適切に行う。

学 校 関 係 者 評 価		
実施日 令和4年2月22日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		

<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の徹底を図りつつ、学校行事、授業等を進めることは大変なことであるが、その中において、肯定的な回答(95.4%)の達成は素晴らしい。さらに学習発表週間を活用し、児童・生徒の活躍の場を積極的に取り入れ、97.7%の肯定的な回答を得たことは大きな成果である。 ・コロナ禍で先生方が子供たちの健康を守りながら、最大限の努力をしていることが伝わってきた。 ・ICTの活用は必須であり、障害のある子供でも社会参加の可能性を広げる。Zoomの活用など会議の効率化などは今後さらなる改善を期待する。一方で重度の子供はICT活用が難しい面もあるので対面も含めて組み合わせた指導の充実を期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの注文販売等の取組は小学部の保護者にも子供にも活動や進路の見直しにつながったのではないかと考える。今後も続けてもらいたい。 ・支援、相談、発表、交流などオンラインで行っていただき、感謝する。センター的機能の役割として専門的なアドバイスを求め、今後も一層の充実を図ることが大切である。 ・今でも障害者に対して根強い差別や偏見があるが、教職員の障害者理解への取組に感謝する。
<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器を装着する子供の保護者待機場所が校舎内から敷地内に広がり、さらに校外になるように進めてもらいたい。 ・特別支援学校は安心と安全を保障する必要がある。医療的ケアを適切に行っていただき85.6%の肯定的な回答が得られていることは諸先生方の日頃の研修や地道な努力の結果である。また、緊急時対応の訓練やメールによる情報発信など大切なこと、保護者が望むことが適切に行われており、まさに安心・安全な学校づくりが進められていると感じた。

